



一粒の米 ～継続は力なり～

緊急事態宣言、不安の中、始まった2学期。でも、毎朝、子供たちと挨拶をしていると、笑顔に心が癒され、どんな状況下であっても、できることを確実に行き、学びを止めてはならないと強く思いました。

さて、2学期は学習する内容や時間から最も充実した期間です。また、ミュージックフェスティバル、ランランフェスティバルという行事を通して、個を鍛え、感性を磨き、自分と仲間を大切にする子供を育てたいと思っています。そのためには、当たり前のことをしっかりと、着実に積み重ねていくことが大切です。「一粒の米」は新井白石の逸話です。あまりにも有名な話ですが、「継続は力なり」ということを実感させるものなのでここに紹介します。

江戸時代、新井白石という偉い学者がいました。特に6代将軍徳川家宣を助けて、幕府の政治を動かした人でした。しかし、この白石も子どもの頃は朝から晩まで遊び惚けて、全然学問をしませんでした。父親は、白石にこんな話をして諭しました。

「米櫃から、たった一粒の米を取っても、お米が減ったかどうかは分からない。けれども、1年間か2年間、毎日一粒ずつ取っていると、減ったことが分かる。逆に、米櫃に一粒の米を加えてもお米が増えたかどうかは分からない。だけど、1年や2年、毎日一粒ずつ加えていると、増えたことが分かる。学問や勉強も同じだ。1日だけ勉強したり練習したりしても、すぐに利口になったり上手になったりするわけでもない。1日怠けたからといって、翌日、すぐに馬鹿になったり下手になったりするわけでもない。けれども、毎日、毎日、ほんの少しずつでも努力を続けると、これが1年後、2年後には、利口になったり上手になったりしたことがよく分かる。逆に、毎日少し怠けていると、気がつくやうにいつの間にか分からなくなったり、下手になったりしてしまっている。継続は力なりだ。」これを聞いた新井白石は、一念発起して、後に幕府を動かす偉い学者になったそうです。

学校の授業でも「一粒の米」と同じく、毎日の積み重ねを大事にし、一人ひとりの子供が自分なりにがんばる姿を支援していきたいと思えます。

ところで、家庭学習はいかがでしょうか？以前に神戸教育フォーラム「家庭学習」の分散会に参加し、保護者の方と意見交換する機会がありました。「仕事が忙しく、声をかける暇がなく、子供任せである。」「低学年の頃は、連絡帳もしっかり確認していたけど、高学年になると見ていない。」等のご意見を聞きました。また、「学校での様子がわかっているようで、見えていないところがある。」とも言われていました。本校の宿題は、音読練習や漢字・計算練習などを中心に出しています。学年が上がっても同じやり方ができるようにノートも揃えています。家庭学習の時間については子供たちに、「学年×10分」という話もしています。とはいっても、毎日、怠けずに続けるということは、とても大変なことです。忙しかったり疲れしたりしていると、つい「今日はいいや」と怠けてしまうこともあります。心の弱さに打ち勝つ「強い心」を育む上でも、学校でも家庭でも同一歩調で子供に声をかけ続けることが大切だと思います。「1. やさしい温かいまなざしをかけ続ける。2. 必要な時は、適切な支援をする。3. 粘り強く継続的な努力を励まし続ける。4. 努力の成果を発見し、肯定的に評価し、意欲的に続ける。5. 粘り強い努力と前向きな意欲による成果を新しい能力として積極的に褒め共感しながら評価する。」等、先生も保護者も「一粒の米」の話を心に留めて、愛する子供たちを支援していきましょう。